

氏 名	下 浦 泰 昌
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 4669 号
学位授与の日付	平成 24 年 12 月 31 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)

学位論文題目	Usefulness of immunoglobulin light-chain restriction on immunocytochemical double staining for the cytological diagnosis of B-cell non-Hodgkin's lymphoma (B細胞非ホジキンリンパ腫の免疫グロブリン軽鎖制限に対する細胞診による免疫細胞化学二重染色法の有用性)
--------	--

論文審査委員	教授 松川 昭博 教授 鶴殿 平一郎 准教授 小阪 淳
--------	-----------------------------

学位論文内容の要旨

本研究では B 細胞非ホジキンリンパ腫の免疫グロブリン軽鎖制限を、細胞診による免疫細胞化学二重染色法で検出し、その有用性を検討した。症例は、リンパ増殖性疾患 40 例 (B 細胞リンパ腫 23 例、反応性病変 13 例、T 細胞リンパ腫 2 例、ホジキンリンパ腫 2 例) を対象に免疫二重染色軽鎖制限について調べた。さらにその 34 例についてはフローサイトメトリー (FCM) の結果と合わせて比較検討した。結果は、免疫二重染色で B 細胞リンパ腫の軽鎖制限が検出されたのは、23 例中 21 例 (91.3%) であった。これに対して FCM で軽鎖制限が検出されたのは B 細胞リンパ腫 21 例中 15 例 (71.4%) であった。反応性病変、T 細胞リンパ腫およびホジキンリンパ腫では免疫二重染色と FCM 共に軽鎖制限は検出されなかった。以上より細胞診に本法を併用することは細胞診断の精度向上に寄与することが示唆された。

論文審査結果の要旨

本研究では、B 細胞非ホジキンリンパ腫の免疫グロブリン軽鎖制限に対して、穿刺吸引細胞診による免疫細胞化学二重染色の有用性をフローサイトメーター (FCM) と比較検討したものである。軽鎖制限は、単クローン性の基準と推奨される Kappa/Lambda 軽鎖比 > 3 または Lambda/Kappa 軽鎖比 > 2 で判断した。その結果、23 例の B 細胞リンパ腫のうち、ランダムカウント (IDS-1) で軽鎖制限を認めたのは 15 例 (65.2%)、中型から大型細胞のみをカウントした場合 (IDS-2) での軽鎖制限は 21 例 (91.3%) であった。FCM を行なった 21 例中、軽鎖制限が検出されたのは 15 例 (71.4%) であった。IDS-1/-2 で軽鎖制限が検出されず FCM でのみ検出された症例は 1 例もなかった。各方法の感度は、FCM:71.4%、IDS-1:65.2%、IDS-2:91.3%、特異度は全て 100% であった。以上より、免疫細胞化学二重染色は FCM と同様あるいはそれ以上の軽鎖制限検出に有用であることを示した。FCM は細胞ダメージがある場合、判定に苦慮することもある。穿刺吸引細胞診に本法を用いることで B 細胞リンパ腫の診断精度が向上し、FCM や細胞診断の補助になることを示したことは高く評価できる。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。